

おきたま米づくり情報 No.2

育苗期間中の高温とばか苗病に注意！ 水温高い！浸種温度をこまめに確認

天候に合わせたきめ細かな管理で「健苗育成」に努めましょう！

- 昨年は「ばか苗病」の発生が県内全域で多く見られました。徒長苗を見つけた場合は速やかに抜き取り、ハウス外で適切に処分しましょう。ハウス内に放置すると、来年度の発生源になる恐れがあります。
- 今年も4月の気温は高く推移する見込みですので、健苗を適期に田植えできるよう播種や育苗の計画を再確認しましょう。

◎播種作業

- 移植日から逆算し計画的に播種を行いましょ。移植適期は5月15～20日です。
- 田植え遅れや老化苗の移植は、活着不良等による初期生育量の確保不足の要因になります。気温が高い条件下では、苗の生育が早まることも考慮した播種計画を立てましょう。

☆作業時期の目安【田植えを5月15日にする場合】

移植日から逆算して計画的に！

| 苗の種類 | 乾籾重 (g/箱) | 浸種開始日 | 催芽日 | 播種日 | 育苗期間 | 葉数 (5月15日) |
|------|-----------|-------|-------|-------|--------|------------|
| 稚苗 | 150～180g | 4月12日 | 4月24日 | 4月25日 | 20～25日 | 2.5枚 |
| 中苗 | 80～120g | 4月2日 | 4月14日 | 4月15日 | 30～35日 | 3.5枚 |

◎育苗期間の温度・水管理

- ハウス内および苗床（被覆資材下）の両方に温度計を設置し、温度確認をこまめに行いましょう。

【低温対策】

- ・保温性の高い資材で温度を確保しましょう。ただし無加温出芽で低温が続く場合、遮光性の高い資材は苗床の地温上昇を抑制し、出芽に時間を要する場合がありますので注意が必要です。

【高温対策】 ～ハウス内の気温が40℃を超えるとわずか30分でヤケることがあります～

- ・晴天時は高温障害が発生しやすいので特に注意が必要です。温度が上がる前に早めにハウスを換気する、遮光資材を使う等の対策を取りましょう。
- ・保温マットを使用した場合、晴れた日は苗床の温度が急激に上昇することがあるため、早めに換気、保温マットを除去する等の対策が必要です。

【育苗期間の温度管理】

| | 昼間 | 夜間 | 注意点 |
|------------------|--------|------|---|
| 出芽時 | 30～32℃ | | ○無加温出芽は出芽を揃えることがカギ。きめ細かな管理を行う。 |
| 緑化期 (出芽後2～3日) | 25℃ | 15℃ | ○外気温が25℃以上の日は苗ヤケに要注意！早めにハウスを換気する。 |
| 緑化期以降 | 20～25℃ | 8℃以上 | ○低温時には保温に努める。 ○霜が予想される場合は早めにハウスを閉める。 |

おきたま米づくり情報
(LINE)

- かん水は午前中に1回が基本です。夕方からのかん水は根張り不良となるため避けましょう。
- プール育苗では、1.5 葉期頃から入水します（上限は床土の高さまで）。**プール育苗の場合は苗が伸びやすいので、夜間5℃以上の場合は、昼夜ともハウスを開放**し、ハウス内気温を低めに管理します。ただし、**低温・降霜が予想される場合はハウスを閉めるなど保温的管理**を行います。2 葉期以降は、育苗箱の上1 cm程度の水深で常時湛水とします。

◎ 育苗期間中の病害対策

- 出芽を揃え、温度管理やかん水を適切に行い、病害を発生させない環境づくりが大切です。カビの発生や苗の生育異常がみられた場合は、早めにご相談ください。

【育苗期間中に発生する病害と対策】

| 病原菌 | 主な症状 | | 発生条件 | 発生抑制のポイント |
|------------------|-----------------------------|---|---------------------|-------------------------------|
| リゾプス | 覆土を覆う白いカビ |  | 出芽時の高温過湿 | ○33℃以上の高温、過湿にしない |
| フザリウム | 根のまわりに白色～淡紅色のカビ |  | 出芽～緑化期の低温、加湿の変動が大きい | ○低温をさけ、適切な温度を保つ ○過湿にしない |
| ピシウム | カビは見えない、ムレ苗 2 葉期頃に葉の萎凋症状 |  | | |
| トリコデルマ | 床土や糞の周辺に白色～青緑色のカビ |  | 水分不足、育苗土の低 pH | ○33℃以上の高温にしない |
| 苗立枯細菌病 もみ枯細菌病 | 第2 葉葉身基部の黄白化、枯死、坪枯れ |  | 高温過湿、育苗土の高 pH | ○高温過湿にしない ○発生した場合は苗を速やかに処分 |

◎ 本田への土づくり肥料の積極投入

- 異常気象に負けず、米の品質・収量を安定的に確保するために、「土づくり」は必須です。特に、**ケイ酸資材は①根の活力維持、②登熟能力の向上、③いもち病抵抗性向上**の効果が期待できます。土壌 pH の改善にも有効です。積極的に施用しましょう。

【施用の目安】ケイカル 120 kg/10a

◎ 作土深の確保

- 土壌からの養分の供給力増加や、登熟不良・玄米品質の低下軽減のため、**作土深 15cm** を目標に耕起を行いましょ。

◎ 品種に応じた基肥量の目安

- 基肥は下表を目安にし、良食味米の生産に努めましょ。
- 堆肥を施用する場合は、家畜の種類や原料により成分が異なるので、堆肥の特徴を把握し、散布量を決定します。また、**堆肥を施用した場合は、基肥を減肥しましょ。**

表 品種別の基肥量（窒素量）の目安

| 品種名 | はえぬき | つや姫 | 雪若丸 | コシヒカリ | ひとめぼれ | あきたこまち |
|----------------|------|-----|-----|-------|-------|--------|
| 窒素成分量 (kg/10a) | 5～6 | 3～4 | 4～5 | 3～4 | 4～5 | 5～6 |